【ねがいましては】

平成２１年７月２７日　　*KYOWA SCHOOL*
第２２５号

「旅」

夏休みが近づいてきました。私の少年時代、７月に入ると、それはもう１日１日がワクワクの連続でした。「早く夏休みにならないかな・・・。」母の里である岐阜の田舎へ早く行きたい。それだけですべての時間が支配されているといっても言い過ぎではない毎日でした。少年時代の夏の４０日間は、今の私の土台を育んでくれています。

コンクリートだらけの都会、常に急ぎ足で歩いているような人々の群れ・・・車のクラクション。人造的な色あいに飾られた町並み・・・。活気ある人々の生活の匂いがします。豊かな生活を手に入れようと、時間を惜しまずせっせと働いています。父もそのようにして休日出勤をし、私たち家族を養ってくれました。

長時間電車に揺られての旅、線路から聞こえる車輪の奏でる声、駅に着くたびに流れるアナウンス、「○○駅、○○駅、・・・ピーッ、・・・プーン・・・ガタンゴトン、ガタンゴトン・・・。」やがて風は、都会の匂いから緑の匂いへと姿を変えます。気がつくと駅に着きドアが開くたびに、せみの声が車内に入り込みます。車窓からは清流が見えます。白いしぶきを上げ、潤いのあるさわやかな風を届けてくれます。

都会のあわただしい時の流れから解放され、自然のつくった時計の中に歩みを入れて生活する。

子どもたちの生活場所は、このようなところが最も相応しいのだと思います。

今思うと、何が私をそこまで駆り立てたのか？

自由が欲しかったのかな・・・そんな気がいたします。

お味噌汁の香りで目を覚まし、外へ出る。朝つゆの中を駆け回る。足はビショビショだけど、なんともいえない空気の味はそんな事など忘れさせます。今にもはちきれそうなキュウリに塩をすりつけガブリ・・・。午後は決まって川で水浴び、３時のおやつにスイカをおなか一杯食べてお昼寝。涼しい風通しのいい部屋で読む本。夜になるとホタル狩り・・・・・・・・・・・・。

今の子どもたちは、起床、部活朝練習、授業、部活午後練習、塾、宿題、就寝・・・くりかえし。週休２日制になっても部活動は土曜、日曜の彼らの時間を奪っていきます。

そして長期休暇である夏休みも、部活・・・。ほとんど毎日学校へ行っているようです。それもすべて『勝つ』ため・・・。ここに危険なことが待ち構えます。自立できるのか・・・。

可愛い子には旅をさせろとよく言います。これでは１年中、旅の時間などありません。

旅って何なのだろう・・・。

私の勝手な考えなのですが、まず、自分の生き方（生活）を自分が選択決定し、様々な出会い、体験を通じ、負けること失敗することを重ね、自らが社会の中で小さい存在であること認識し、助け合って共感しあって生活することが真の幸せであることを理解すること。

様々な土地で出会う人々の暮らしは、旅する人に『しあわせ』のヒントを与えてくれます。

私は田舎の風景の中で、背中の曲がったおばあさんが和手ぬぐいを頭にかぶり、竹かごを背負い、杖をついて歩いているのを見かけると、思わず手を合わせたくなります。ありがとうございます。

生きるってこういうことなんだ・・・。

勝つとか負けるとか、とても小さいこと。

今を生ききっている・・・。毎日が精一杯・・・。

すべてが自然体・・・生を受け、齢を重ね家族を養い、子育てを終え、そして静かに枯れてゆく・・・。

子どもたちに必要なものは『生きようとする力』です。でも、彼らが机に向かっているときの瞳は、明らかに生きようとはしていない瞳なのが現実です。

先日ある子から質問されました。「先生、宿題って何であるの。」

私は今の社会が言っている『学力』に少し抵抗があるので、ちょっぴり皮肉っぽく言いました。

「先生たちが自分のクラスの成績上げたいんじゃないかな。」（そうではない先生方、本当にごめんなさい。）

私はそのような質問など全く出ることのない、子どもたちの姿を想像します。

先ほどの腰の曲がった、背中の曲がったおばあさんの働く姿を子どもたちに見て欲しい、「何で宿題があるの」などというような質問など受け付けない、「生きるってこういうことなんだよ、子どもたちよ、とにかく前に歩こう。」

勉強がどうとか成績がどうとか、それはとても小さなこと。毎日毎日を精一杯に生ききること、今、目の前にあることに精一杯いのちを咲かせましょう。

さいこきゃんぷが近づいてきました。たった４泊５日なのですが、いのちを咲かせる勉強をしましょう。

ここでちょっと練習をしましょう。

さあ、あなたのとなりにいる人（家族・友だち）の心の手をそっとにぎってあげてください。

これであなたもとなりの人もあったかさんになりました。ありがとう。